

2007 年中堅・中小企業の PC サーバ導入実態調査報告

ノークリサーチ（本社〒120-0034 東京都足立区千住 1-4-1：代表伊嶋謙二 03-5244-6691、URL: <http://www.norkresearch.co.jp>）では 2007 年中堅・中小企業の IT 導入実態調査を実施し、その分析結果を発表した。

本リリースは上記調査から中堅・中小企業における「導入部門別のサーバの利用実態」（経年変化、企業の属性別）を詳細に分析している。結果として、中堅・中小企業に設置されているサーバの主流は「基幹系」「Windows」「1Way」「タワー」「IT 部門で管理」「メーカー系から購入」となっている。同じサーバを長年利用し続ける実態が明らかになった。

<中堅・中小企業の PC サーバ導入実態調査のポイント>

- 設置サーバのメーカーシェアは「NEC」が 22.2%でトップ、上位 5 社の混戦が続く
- 半数以上が「導入後 3 年以上経過している」サーバである
- 利用用途は、基幹系業務システムは 37.1%、社内情報構築システムが 27.5%
- 9 割近くが「Windows」を使用、「Linux」などの他 OS は目立った変化なし
 - Windows Server 2003 が昨年比 9.9 ポイント増の 35.8%だが、旧 Windows 勢（NT/2000）も約 5 割と根強く残る
- CPU タイプは 66.7%が「1Way」だが、「Dual コア CPU」の利用率も上がっている
- タワー型が 57.0%、ラック型が 40.1%、ブレード型は 1.6%と極めて少ない
- サーバ管理に関して 6 割以上が「IT 部門で管轄」、IT 資産の一元管理の傾向が見える
- サーバ購入先は「メーカー系から購入している」が過半数を超えている

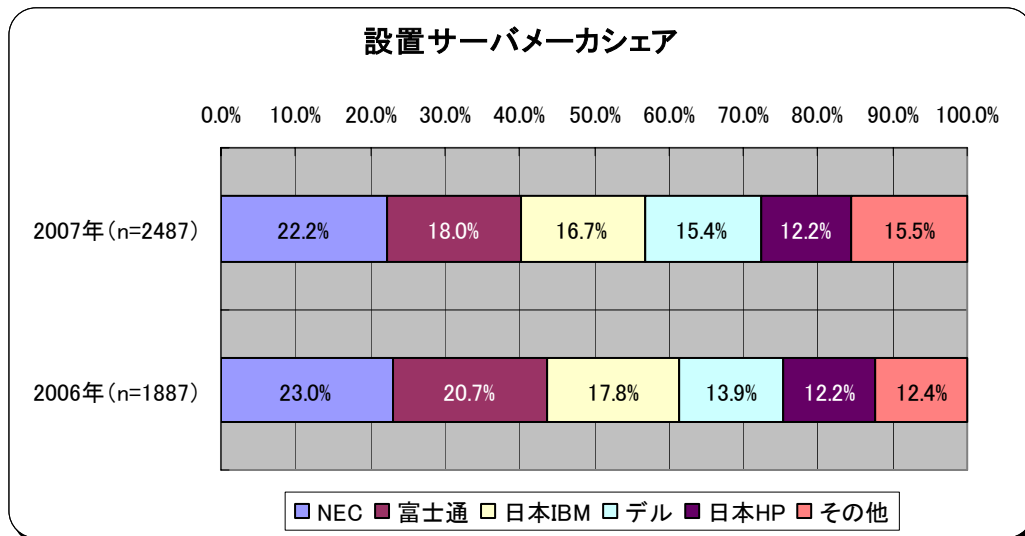
対象企業：全国の民間企業（年商 5 億円以上 500 億円未満）。有効回答数 1140 社
 調査方法：郵送アンケート 調査分析期間：2007 年 1 月～5 月

—設置サーバメーカーシェア—

■ 設置サーバシェアは「NEC」が 22.2%でトップ

中堅・中小企業に設置されているサーバのメーカーシェアは、「NEC」が 22.2%と最も高いシェアを占め、「富士通」18.0%、「日本 IBM」16.7%と続く。

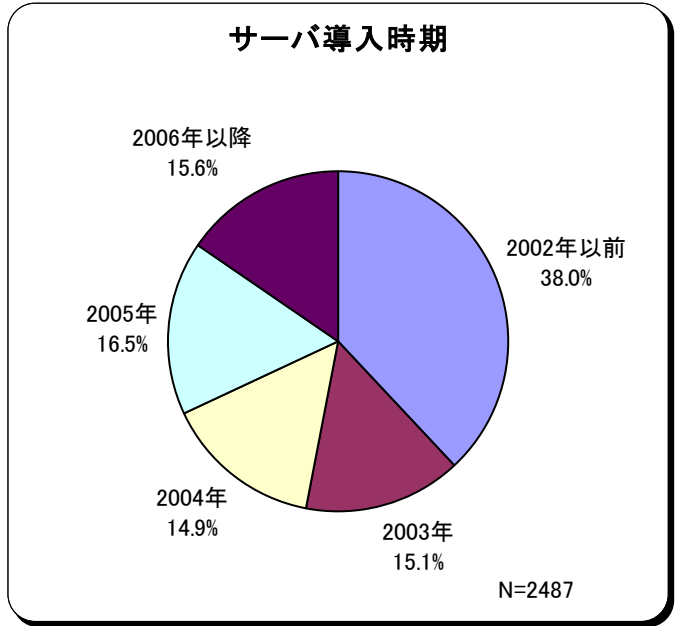
06 年との比較では、「NEC」がトップを維持しており、「デル」のみが若干シェアを伸ばしている。ただし、トップの「NEC」と 5 位の「日本 HP」の差は 10 ポイント。上位 5 社の混戦模様となっている。



—サーバ導入時期—

■ **サーバの半数以上は「2003 年以前に導入」**
 サーバ導入時期は、「2002 年以前」が最も多く 38.0%、「2005 年」16.5%、「2006 年以降」15.6%と続く。

2003 年以前に導入されたサーバが半数近くあることから、導入したサーバを長年利用する中堅・中小企業の姿勢が見える。

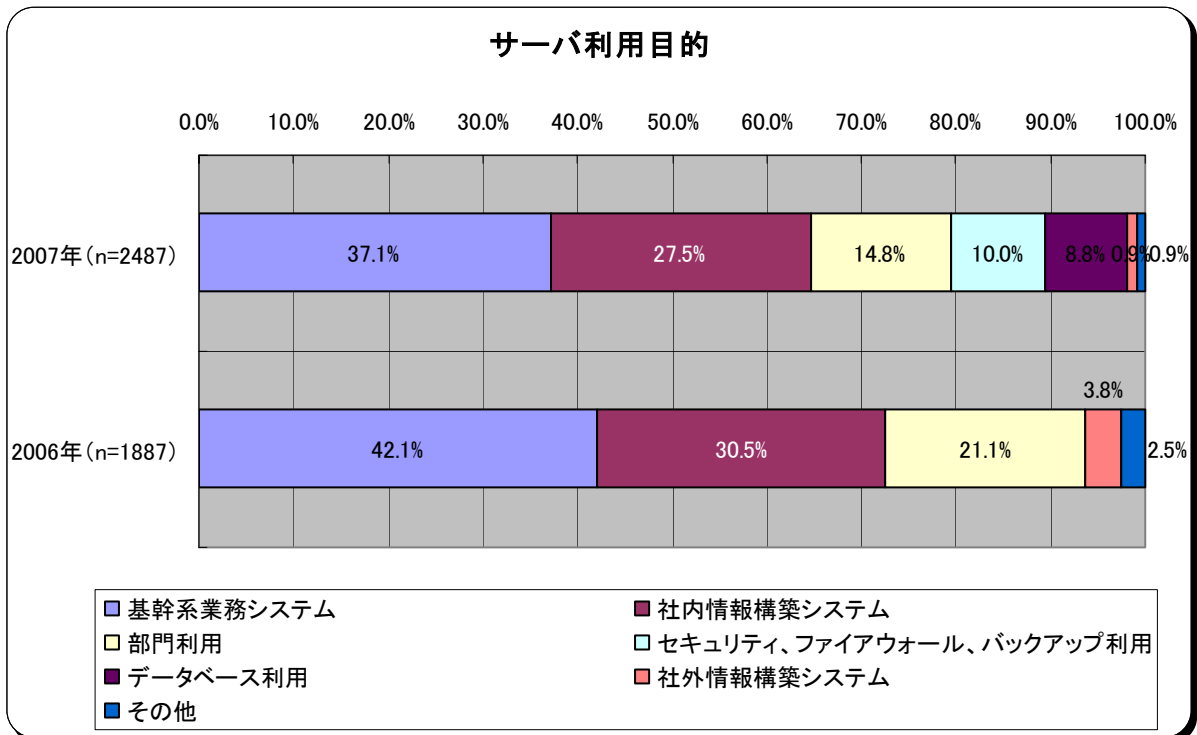


—サーバ利用目的—

■ **「基幹系業務システム」が 37.1%、「社内情報構築システム」が 27.5%**

サーバ利用目的は、「基幹系業務システム」が 37.1%と最も多く、「社内情報構築システム」27.5%、「部門利用」14.8%と続く。基幹系業務システムや社内情報インフラ系のような運用年数が長い分野への利用目的が 6 割以上のサーバである。

本年度調査から新たに加えた「セキュリティ、ファイアウォール、バックアップ利用」は 10.0%、「データベース利用」は 8.8%となっている。特にセキュリティ等への関心の高さは、中堅・中小企業にも波及してきていると推察される。



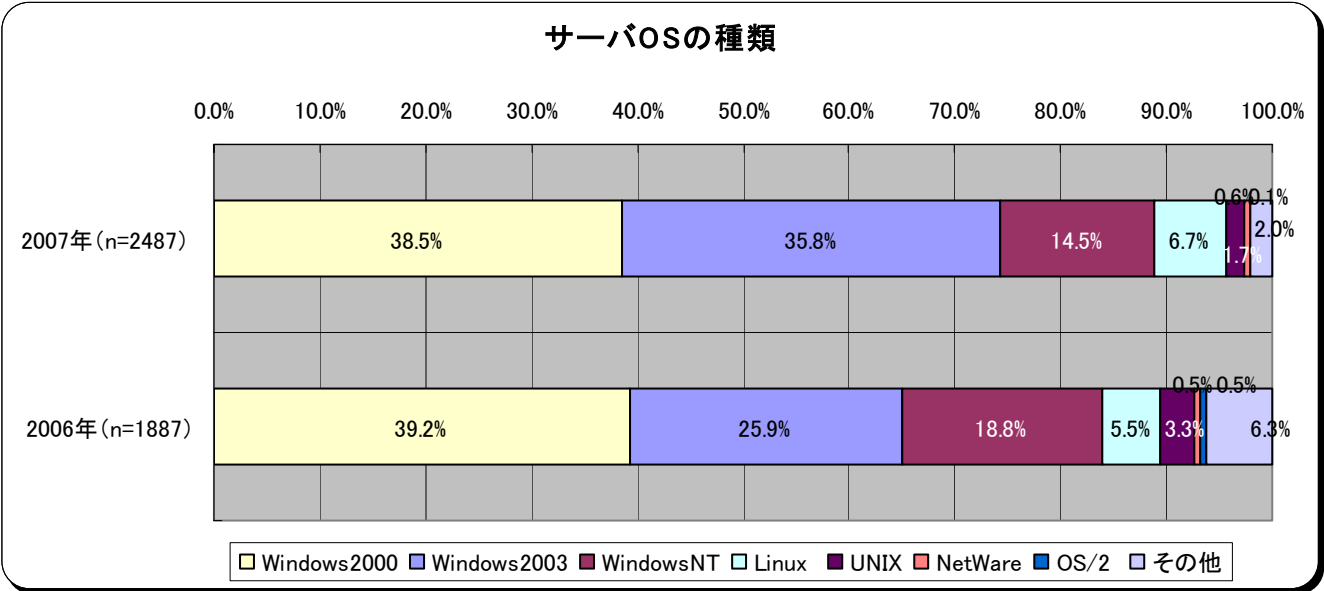
—サーバOSの種類—

■ サーバOSは「Windows2000」が38.5%、「WindowsNT」14.5%で旧Windowsが過半数

利用されているサーバOSのシェアでは、「Windows2000」が38.5%と最も多く、「Windows2003」が35.8%、「WindowsNT」が14.5%と続く。Windows系OSの利用率は合わせて約9割となり、06年から比べ、更なるデファクト化が進んでいる。

Windows系OSの内訳は、「Windows2003」は9.9ポイント増で順調に割合を伸ばしているが、「WindowsNT」「Windows2000」といった旧OSも未だに約5割あり、根強く残っている。

「Linux」は06年との比較でも、ほとんど変化は見られず6.7%となった。

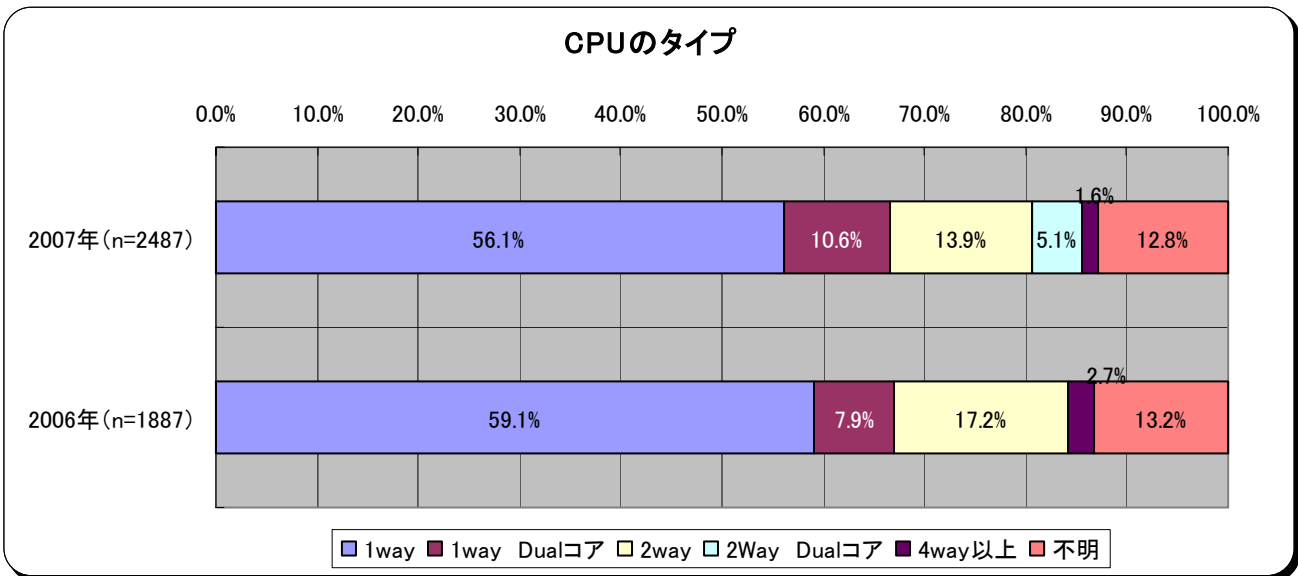


—CPUタイプ—

■ CPUタイプは「1way」が56.1%。伸びるDualコアCPU

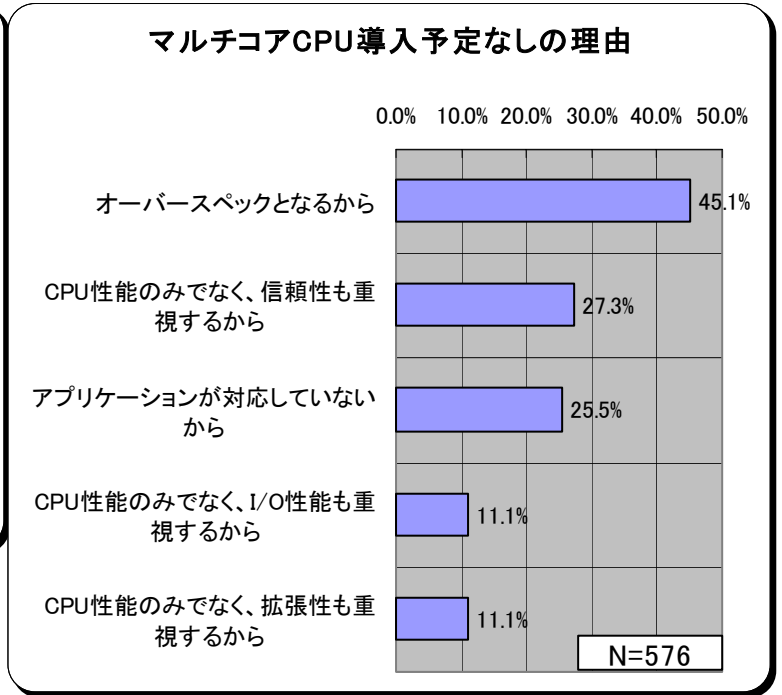
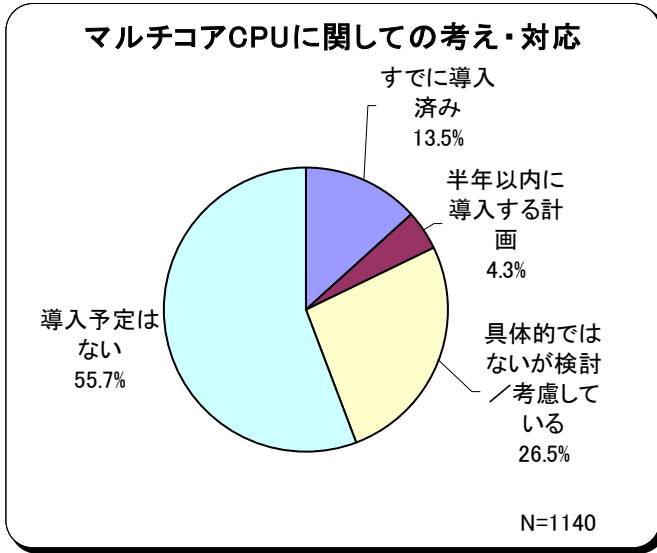
CPUのタイプは、「1way」が56.1%と過半数以上、「1way Dualコア」10.6%、「2way」13.9%と続く。06年からマルチコアCPUの割合が漸増している。

「1way」に「1way Dualコア」を加えると66.7%となり、中堅・中小企業においては「1way」がサーバの大勢を占めていることに変わりはない。



—マルチコア CPU の利用実態—

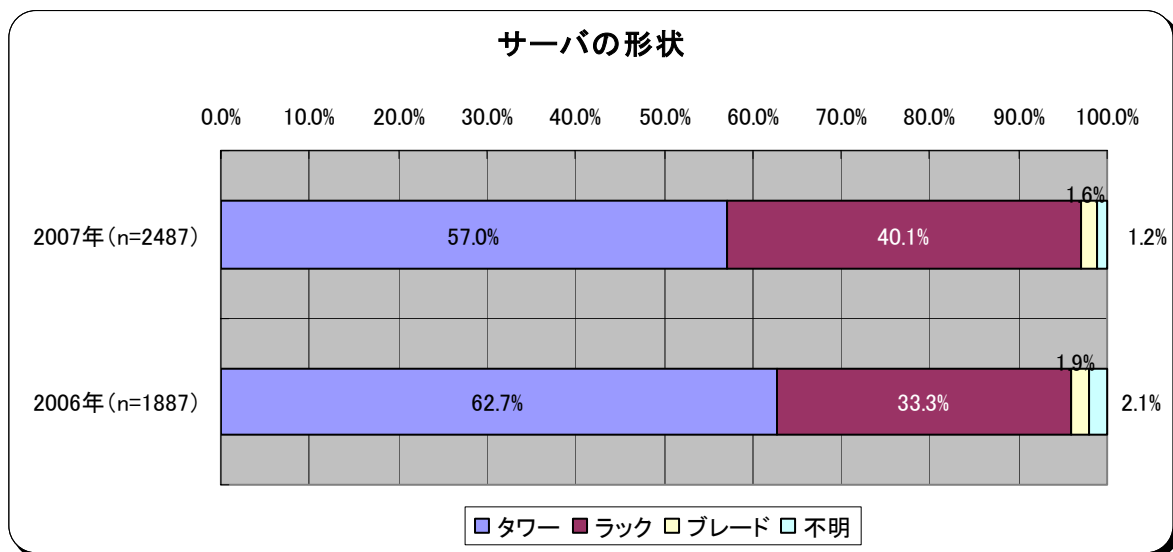
■ マルチコア CPU には 4 割以上が前向き、一方導入しない最大の理由は「オーバースペック」への懸念
 マルチコア CPU に関して「すでに導入済み」13.5%、「半年以内に導入する計画」4.3%、「具体的ではないが検討/考慮している」26.5%を合わせると 4 割を超える。一方、「導入予定はない」と回答した約 6 割のユーザの挙げる理由は、「オーバースペックとなるから」が 4 割強と最も多い。調査時ではシングルコアとマルチコアが併売されていたが、現時点で各メーカーの主力はマルチコアにシフトしており、シングルコアは終息して行く予定だ。結果的にユーザの意識とは逆に、今後はマルチコアの導入が進んで行くと考えられる。



—サーバ導入の形状—

■ サーバの形状は「タワー」が 57.0%、「ラック」が 40.1%と高める

サーバの形状は、「タワー」が 57.0%、「ラック」が 40.1%、「ブレード」が 1.6%となっている。
 06 年との比較では、「ラック」の割合が 6.8 ポイント増え、サーバの省スペース化は着実に進んでいるが、現状ではまだ「タワー」が主流となっている。一方で「ブレード」はほとんど変化がない。中堅・中小企業へのブレードの普及にはまだ時間がかかりそうである。

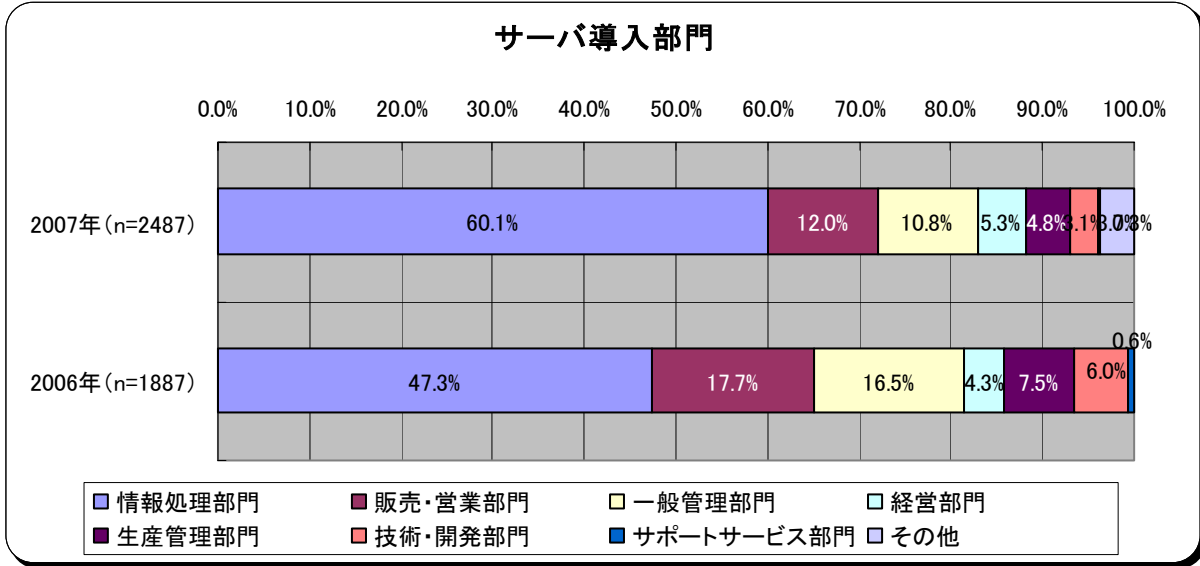


—サーバ導入部門—

■ サーバ導入部門は「情報処理部門」が60.1%で圧倒的

サーバ導入部門は、「情報処理部門」が60.1%と圧倒的で、「販売・営業部門」12.0%、「一般管理部門」10.8%と続く。

06年に比べ、「情報処理部門」(IT部門)へのサーバ導入率が12.8ポイント増加しており、逆に「販売・営業部門」を始めとする「非情報処理部門」への導入は減少傾向にある。中堅・中小企業でもようやく自社サーバを「IT部門で一元管理」する傾向が強まってきた。

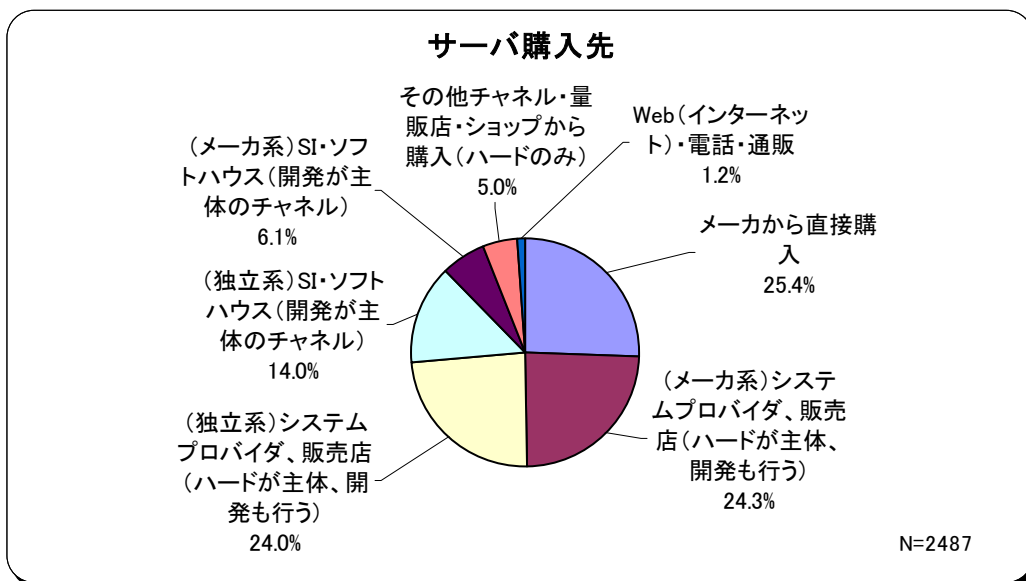


—サーバ購入先—

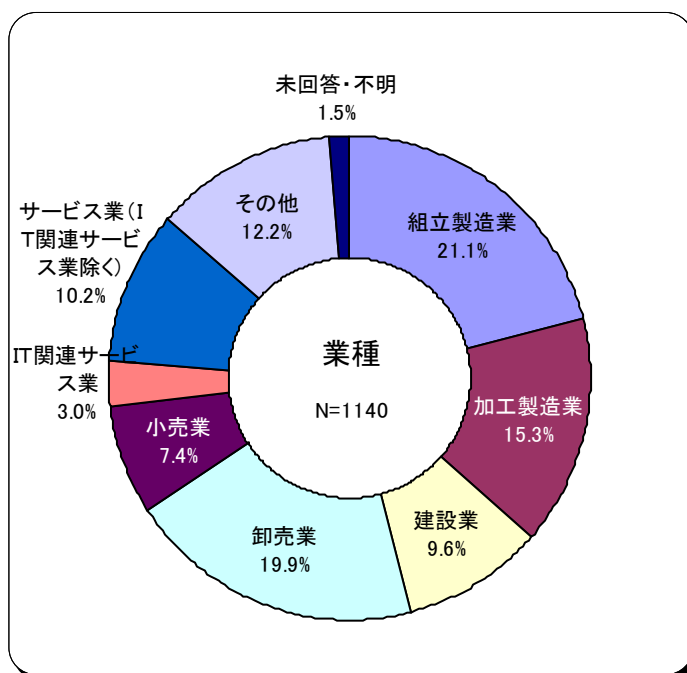
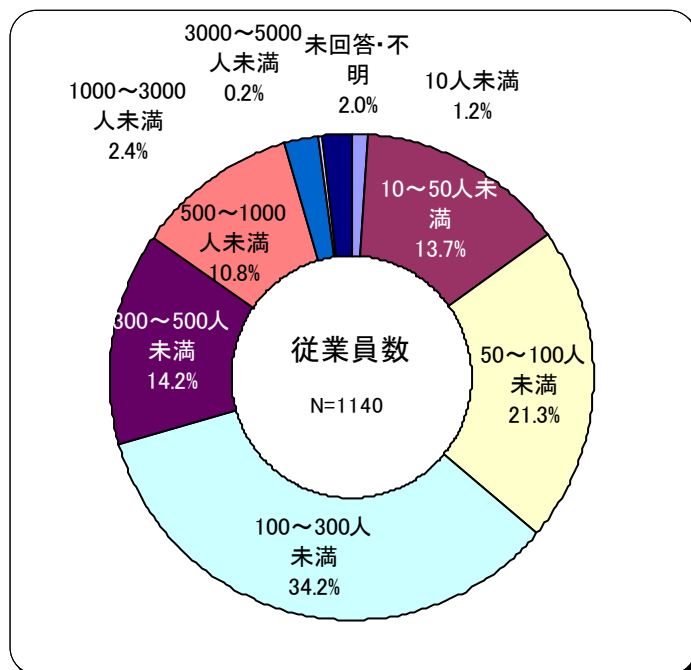
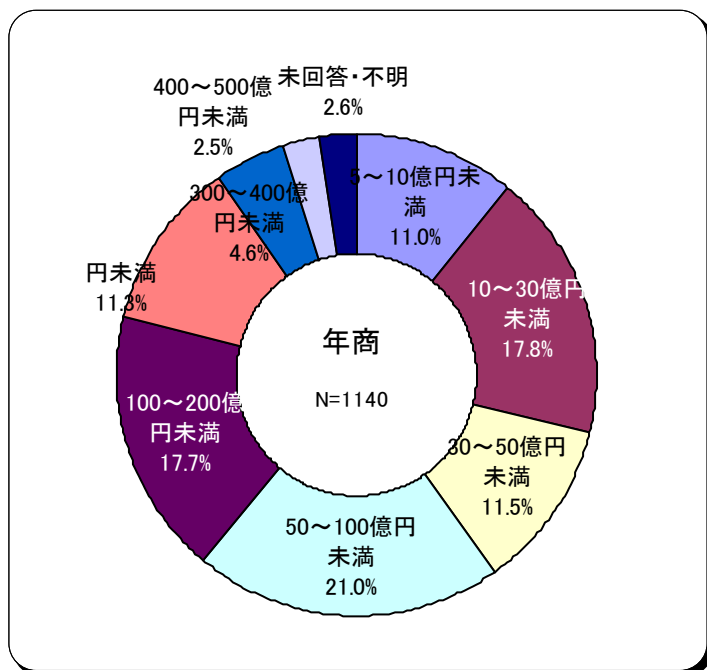
■ サーバ購入先は「メーカー直販、メーカー系チャネル、メーカーSI」が圧倒的に選ばれている

サーバの購入先は、「メーカーから直接購入」が25.4%、「(メーカー系)システムプロバイダ、販売店(ハードが主体、開発も行う)」が24.3%、「(独立系)システムプロバイダ、販売店(ハードが主体、開発も行う)」が24.0%と続く。

「メーカー直販、メーカー系チャネル、メーカーSIを合わせたメーカー系販売」が圧倒的である。



—回答者属性—



当調査データに関するお問い合わせ



株式会社 ノークリサーチ
 担当：伊嶋 謙二 (いしま)
 e-mail: pressr@norkresearch.co.jp
 〒120-0034 東京都足立区千住 1-4-1
 電話 5244-6691 FAX 5244-6692
 URL: <http://www.norkresearch.co.jp>